

# 2016年度「日本・アジア文化と人間」プロジェクト研究報告

2016Annual Report

'Japan and the Asia culture, and a human being' Research Project

梶山女学園大学文化情報学部教授

飯塚 恵理人

Erito Iizuka

「日本・アジア文化と人間」プロジェクトでは昨年度に引き続き、構成員がそれぞれメインテーマである「日本・アジア文化と人間」を踏まえ、各自の研究を継続遂行した。

梅野きみ子

前年度からの継続の下記2つの研究課題に取り組んだ。

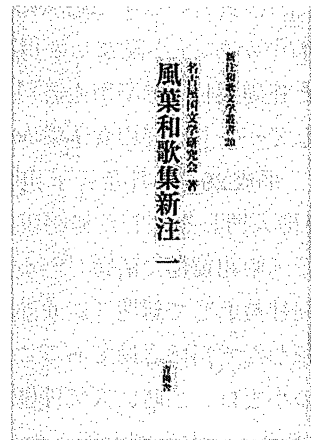
## 1) 名古屋国文学研究会

所属する会員（名古屋・関西方面からの女性研究者20名ほど）が、4月2日（土）、5月7日（土）、6月18日（土）、7月2日（土）、8月6日（土）、9月3日（土）、10月1日（土）、11月5日（土）、12月3日（土）、1月21日（土）、2月4日（土）、3月4日（土）、3月25日（土）のそれぞれ午後1時～6時まで、梶山人間交流会館G階会議室において、『風葉和歌集』の注釈研究のための発表会を開催した。その成果は、平成28年5月25日発行の『新注和歌文学叢書』（青簡舎）の中に『新注和歌文学叢書 20 名古屋国文学研究会著 風葉和歌集新注 一』として刊行された（写真画像参照）。

引き続いて、『同 新注 二』を刊行するために、これまでの発表会の原稿をまとめながら、さらに、続きの18号以降の部分の研究

発表会を開催した。

なお、これまでに発行した『風葉和歌集研究報』1～18号は、その叢書の体裁に合わせた原稿に、修正・書き換えて編集している。



## 2) 『源氏物語』の注釈研究会

本研究会では、風間書房からの共著『源氏物語注釈 十一（浮舟一夢浮橋）』を刊行するための打ち合わせを、共著者6名のうち5名までが、名古屋国文学研究会のメンバーである関係から、上記の名古屋国文学研究会の開催された日に、梶山人間交流会館G階会議室において、編集方針などの討議をした。『源氏物語注釈 十一』（浮舟一夢浮橋）の出版は、平成28年10月刊行予定であったが、平成29年6月頃刊行を目指すことにして延期

した。その理由は、次の『源氏物語注釈 十二 索引』をCD-R版にして、『源氏物語注釈 十一（浮舟—夢浮橋）』に挟んで、同時出版した方が、時代の趨勢にかなった著作になろうということになったからである。原稿執筆のための、編集方針の打ち合わせは、2月4日名古屋国文学研究会の開催される日に合わせて、その開催の前に、交流会館G階会議室において継続して開催した。

#### 富田和子

平成28年度は前年度に引き続き、18世紀以降、近世後期以降の俳諧資料の収集と整理を中心に、当該資料の収集と整理に努めた。この成果の中から、「小説家 中川雨之助の狂俳研究と狂俳観——柳亭雨人著『狂俳入門』を端緒として——」（『椋山女学園大学研究論集』48号 平成29年3月発行予定）をまとめた。『狂俳入門』を著した柳亭雨人は、名古屋で大正・昭和前期に活躍した小説家で、新愛知新聞社員として新聞「新愛知」に連載小説を執筆した中川雨之助であることが判明した。その小説は、当時、人気俳優の片岡千恵蔵や嵐寛寿郎、大友柳太郎らの主演で17本も映画化されるほど評判のよいものであった。しかし、地方の小説家であるためか、辞典に取り上げられることなく、ほとんど知られていない。そこで、雨之助の略歴と狂俳の研究方法を確認し、彼の狂俳観について考察したものである。

他に、東海近世文学会10月例会で、研究

発表「尾張俳人の系譜——『愛知古今俳人百家撰』を端緒にして——」を行った。小寺玉晃編『愛知古今俳人百家撰』は、也有を筆頭に、暁台の門人を中心にして、古今の尾張俳人102名を描いた絵俳書である。この中に狂俳撰者としても活躍した千里亭芝石や梅巢舎巴水らがあり、芝石は「大ニ俳諧狂俳繁盛<sub>シテ</sub>高名ノ壺人也」と評された。そこで、尾張俳人の系譜について考察したものである。更に資料を蒐集し、論文にまとめたいと考えている。

#### 飯塚恵理人

飯塚は昨年度に引き続き、所属する「メディアと古典芸能研究会」との共同でラジオ放送開始期からテレビ放送開始後の民間放送の放送関係資料や放送局附属劇団の関係資料の収集・整理およびアーカイブ化を行った。

プロジェクト研究費と平成28年度科学研究費助成基盤研究（C）「東海地域近世・近代能楽資料の収集・整理とアーカイブ化」（研究代表者：飯塚恵理人、課題番号：26370216）による成果のうち、民間放送関係資料の成果については「名古屋芸能文化」26号に村上正樹氏との共著で論文「『名古屋芸能文化としてのテレビ局草創期ドラマ制作』の基礎的研究～中部日本放送草創期のテレビドラマ『演出家・伊藤松朗』の仕事～」を掲載した。また東海地域の古典芸能については本誌「椋山人間学研究」に「戦後東海地域古典芸能資料の紹介—写真から伺える能楽・筆曲愛好者の実際—」としてまとめた。